

## 『COACH』とは？

～ 選手を目的地まで運ぶ... ～

「指導者の仕事」とは、子どもたちに自分で考え判断しプレ - する楽しさを伝え、「クリエイティブでたくましい選手」を育成することです。また、個々の課題を明確にし、ゲーム分析・プランニング・トレーニング・ゲームのサイクル（PDSサイクル）で課題の改善を図り、子どもたちの成長を手助けすること、そしてその年代で身につけさせなければならないものを身につけさせ、次のステージに送り出すことです。  
(サッカー指導教本2007)

\* PDSサイクル...「Plan(計画)」・「Do(実行)」・「See(評価)」で検証し、改善策を講じていく組織行動の基本概念。サッカー指導も同じ、「個々の選手の育成」という目的のために「計画」・「実行」・「評価」のサイクルで指導を行う。

全道高校ユース釧路予選の決勝を見てきました。江南高校と工業高校の指導者・選手の皆さん、全道大会での活躍を期待しています。決勝戦は、結果よりも中学校時代にトレセンなどで見慣れた顔やチームで活躍していた顔に混じって見知らぬ顔も何人かいて、一人ひとりのプレーを楽しく（自分の指導した選手もいるので反省しながら？）見ることができました。高校生になり、髪も伸びて（？）雰囲気が変わった選手もいてすぐに誰かはわかりませんでした。ただ、プレーをしている姿を見ると名前がすぐ出てきました。ボールがあるところ(on the ball)でのプレーはU-12やU-15年代の時とあまり変わりません。選手の大きな幹の部分はU-12にかたちづくられ、U-15年代で大きく伸びる。逆に言えば、それだけこの年代は重要だということです。自分の関わった選手もいるので、自分の指導に欠けていた部分そのままプレーに出たりします。高校生になった選手を見ると、選手が技術だけでなく、戦術的な理解や人間性の部分で身につけておくべきことを指導されてきたかがわかります。高校生になってから身につけるといっても、遅すぎるものもあるので、ちょっと申し訳ない気持ちになります。JFA アカデミーで言われるまでもなく、選手には様々なポジションの経験が必要であるし、どの選手も同じように試合経験をしておくことが大切です。(その選手の可能性まで奪わないように。) 高校生になった選手を見ていると、多くの指導者のリレーによって今の選手がいることと同時に一貫指導の大切さを痛感します。

\* 「COACH」の語源...

「コーチ」という語は、ハンガリーのコチ(Kocs)という町で農閑期の収入源として作られた四輪馬車・コーチ(kocsi)に由来する。コチで世界で始めてサスペンション付きの馬車を製造され、コーチは馬車の代名詞となった。19世紀ごろ、オクスフォード大学で、家庭教師(tutor)を、目的地に運ぶ馬車になぞらえコーチと呼ぶようになり、指導者のことを指す言葉となった。

なかなか選手は、思うように成長してくれません。当たり前です、人間(まして子ども)ですから。自分も試合中にイライラしてついつい怒鳴ってしまいます。コーチは選手に成長して欲しいので... と言いつつ怒鳴って、効果がなくて、結局反省することになります。(馬車は怒鳴らないんですが...)